

ホンジュラス内政・外交（2010年12月）

概要

【内政】

●国家法務局の要請を受けて裁判所が任命したセラヤ前大統領の国選弁護人が、21日、裁判所に対し、セラヤ前大統領を被告人とする裁判の無効請求を提出した。これを受け、同日、ドミニカ（共）に滞在中のセラヤ前大統領は、裁判の終了等の諸条件が完全に満たされるならば直ちに帰国する用意があると発表した。

【外交】

●5～6日、バレンスエラ米 국무次官補（西半球担当）が来訪し、ロボ大統領らと会談した。同次官補は、ロボ政権による国内融和及び民主主義回復のための努力、及び国際社会との関係修復を評価するとともに、人権状況及び無処罰状況に対し憂慮を示した。

●ホンジュラス関係の米外交公電とされる7件の文書が「ウィキリークス」により公開された。

1 内政

（1）セラヤ前大統領の帰国問題

15日、国家法務局の弁護士2名が裁判所に対し、セラヤ前大統領の裁判に同局が当事者として参加することを求めるとともに、セラヤへの弁護人の任命を含む適正な裁判手続きを保障するよう要請し、これを受け裁判所は3人の国選弁護人を任命した。

21日、セラヤ前大統領の国選弁護人が裁判所に対し、セラヤ前大統領を被告人とする裁判の無効請求を提出した。無効の根拠として、被告人に弁明の機会が与えられなかったことなど適正手続きの欠如を挙げた。

これを受け、同日、ドミニカ（共）に滞在中のセラヤ前大統領は、「自分（セラヤ）に対する捏造された裁判の「終了」及びその過程の国際的なフォローアップという諸条件が完全に満たされるならば、我々は直ちに帰国する用意がある。」と発表した。

2 外交

（1）バレンスエラ米 국무次官補の当地訪問（5日～6日）

5～6日、バレンスエラ米 국무次官補（西半球担当）が来訪。6日、ロボ大統領と会談し、セラヤ前大統領の帰国問題、ウィキリークスによる外交公電公開、麻薬問題対策等につき協議した。この他、エルナンデス国会議長、リベラ最高裁長官、ルビ検察長官、コラーレス対外協力（SEPLAN）大臣、ポンセ人権担当検事らと会談を行った。

同6日、バレンスエラ次官補は記者会見において、以下のとおり発言した。

（ア）国内融和及びセラヤ前大統領の帰国問題：ロボ政権による国内融和及び民主主義回復のための努力を評価。また、セラヤ前大統領の帰国が実現すれば、国内融和は更に前進

するだろうと述べた。

（イ）国際社会との関係修復：「ホンジュラスが、西半球、欧州及びアジアの伝統的な同盟国の多くと関係を修復したことに満足している。」旨述べた。

（ウ）人権問題：ロボ政権による人権問題への取組を評価する一方で、「ホンジュラスの人権状況及び無処罰状況を憂慮している。報道関係者殺害事件やその他の人権侵害事件を解決し、責任者は逮捕・処罰されるべきである。」旨述べた。

（エ）ウィキリークスによる外交公電の公開：「今次公電公開は米国と友好国・同盟国の関係に損害を与えようとした小さな個人団体による不可解な行動であり、両国の友好関係には影響しない。」旨説明した。

（２）ウィキリークスによる米公電公開

１２月に入り、当地主要紙は以下７件のホンジュラス関係の米外交公電とされるものが「ウィキリークス」により公開された旨報じた。

（ア）フォード前当地米大使によるセラヤ大統領（当時）についての人物評（２００８年５月１５日付。秘）

【概要】フォード前当地米大使が、後任のロレンス大使に伝えたセラヤ大統領（当時）の人物評。フォード前大使は、「セラヤの主目的は彼自身とその家族の蓄財である」、「検事総長及び最高裁についてはそれらの存在すら厭わしく思っている」、「（言動に）二重性が見られる」等と分析し、セラヤがホンジュラスの民主主義と経済への脅威であると見ていた。

（イ）在ブラジル米国大使館発公電（秘。政治危機に関する米・ブラジル間の意見交換）

【概要】ホンジュラスの政治危機に関する米・ブラジル間の意見交換（０９年８月４～５日。米国家安全保障顧問のブラジル訪問）の内容。ブラジルは、「アリアス・コスタリカ大統領による仲介の成果があがる見込みはもはや低い」、「事実上の政府に対してこれ以上の譲歩はすべきでない」、「米国は事実上の政府に対し、セラヤを復職させるよう、米国査証の更なる取り消しを通じて圧力を強めるべき」、「セラヤを復職させて総選挙を実施させても、特段の違いは生じないであろう。事実上の政府が選挙を実施することは許されない」等と考えていた。

（ウ）在ブラジル米国大使館発公電（０９年９月２３日付。秘）

【概要】セラヤ大統領が滞在中の在ホンジュラス・ブラジル大使館の困難な状況につき説明。

（エ）在ブラジル米国大使館発公電（０９年９月２５日付。秘）

【概要】

（a）ピアナ・ブラジル外務省中米課長による、セラヤの突然の帰国に関する情報及びブラジルから米国及び国際社会への要望。

（b）ムラウ・ブラジル外務省中米カリブ局長が在ブラジル英国臨時代理大使に述べた情報及び要望。

(オ) キュビスキー在ブラジル米臨時代理大使発公電 (09年10月2日付)

【概要】ブラジル政府は、在ホンジュラス・ブラジル大使館の保護及びホンジュラスにおける硬直状態からの脱出について策を持ち合わせていないように見受けられる旨。

(カ) キュビスキー在ブラジル米臨時代理大使発公電 (09年12月10日付。バレンスエラ米国務省次官補のブラジル来訪用の事前ブリーフィング資料)

【概要】ブラジルは、ホンジュラスにおけるクーデターの後、セラヤ大統領がブラジル大使館に現れた際、その問題解決のためにほとんど何もせず、むしろ米国に責任を負わせようとした。また、ブラジルは民主主義及び人権の問題について二重基準をとっている (セラヤ大統領を頑なかつ硬直的に支持する一方で、イランのアフマディネジャド大統領の再選は何ら問題視せずに受け入れた)。

(キ) シャノン米国務次官補 (当時)、インスルサオAS事務総長及びアモリン・ブラジル外相の会合

【概要】昨年9月21日のセラヤの突然の帰国及びブラジル大使館立て籠もりに関し、シャノン米国務次官補 (当時)、インスルサオAS事務総長及びアモリン・ブラジル外相の会合 (09年9月22日) の内容を伝えるもの。

(了)